顕　彰　状

吉永小百合氏（本名・岡田小百合氏）は、東京都渋谷区に生まれ、小学生の頃から、ラジオドラマやテレビドラマで活躍し、ピアノ、日本舞踊、声楽などを習っていた。1959 年、松竹の『朝を呼ぶ口笛』で映画に初出演し、主人公の中学生を励ます少女役を演じた。翌年には『ガラスの中の少女』で初の主役を演じて注目を集め、1960 年代の日活青春映画のスターとして絶大な人気を博した。以来、2021 年、成島出監督作品『いのちの停車場』に至るまで、120 本余りの映画に出演し、現在も日本を代表する俳優として活躍を続けている。

吉永氏は純真で無垢な少女から、明るく溌剌と生きる娘、そして恋愛や人生に思い悩む乙女まで、いずれも瑞々しい魅力を湛えたヒロインだけではなく、貧しさにめげず前向きに生きる少女、不治の病に冒されながら残された日々を懸命に生きる大学生など、アイドルの域を越えた幅広い役柄を演じる国民的俳優となった。また、映画の主題歌で歌手としてもデビューし、大ヒットした。1962 年、橋幸夫氏とデュエットで歌唱した『いつでも夢を』では日本レコード大賞を受賞し、同年の NHK「紅白歌合戦」に出場するなど、めざましい活躍を続けていたが、仕事と勉学を両立させることへの強い願いから、1965 年に早稲田大学第二文学部に入学した。

吉永氏は西洋史学を専攻し、勉学に励むだけではなく部活動やクラスメートとの友情を育むことも怠らなかった。撮影所の仕事を終えた後、授業に駆けつけ、あいている時間は睡魔と戦いながら図書館で自学自修を重ねるという過酷なスケジュールのもとで大学生活を過ごし、４年次には無事卒業論文を書き上げ、1969 年に次席で卒業した。

1970 年以降、折しも日本の映画産業は大きな変容の時期を迎え、吉永氏もさまざまな模索を経験することで、自身の個性を見つめ直すきっかけともなったが、多くの優れた作品に恵まれ、その俳優としての真価をいっそう鮮明に発揮してきた。近年では家族や周囲の人々とのつながりを育む母の役を演じ、それは吉永氏が永年にわたって演じてきた女性像が当然のごとくに辿りついた境地であり、映画初出演から一貫して、常にひたむきに、真摯に生きることで、人間同士の信頼と愛情を築く女性を演じ、そのことが、かくも永きにわたって多くの人々を魅了し、感動させ、力づけている。

そのような吉永氏の俳優としての功績は、1962 年の『キューポラのある街』でブルーリボン賞主演女優賞受賞をはじめ、４度にわたる日本アカデミー最優秀主演女優賞、そして自ら企画・主演した成島出監督作品『ふしぎな岬の物語』がモントリオール世界映画祭で審査員特別賞グランプリ、エキュメニカル審査員賞の 2 冠に輝くなど、映画界における幾多の栄誉はもとより、2006 年には紫綬褒章、2010 年には文化功労者、そして 2014 年には坪内逍遙大賞も受賞するなど数々の褒賞が証するところである。

ここに早稲田大学は、校友である吉永小百合氏の顕著な功績を讃え、早稲田大学芸術功労者として永くその栄誉を顕彰するものである。

２０２１年１０月２１日

早　稲　田　大　学